

科目名	老年看護方法Ⅱ(看護実践) Gerontological Nursing Ⅱ		担当教員 (研究室番号)	清水 律子 (506) 田端 真 (308) 竹村 和誠 (308) 小松 美砂 (301)	教員への連絡方法 (メールアドレス)	清水 : ritsuko.shimizu@mcn.ac.jp 田端 : makoto.tabata@mcn.ac.jp 竹村 : kazunari.takemura@mcn.ac.jp 小松 : misa.komatsu@mcn.ac.jp					
履修 年次	3年次 前期	科目 区分	専門科目・生涯看護学	選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(30)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
										オープンクラス	否
科目 目的	高齢者のストレンクスを活かした看護実践を考えるために、老年期に多い健康障害について、身体、精神、心理・社会面の特徴をふまえて学ぶ。また、健康障害が及ぼす高齢者の生活機能の変化や支援について考える。さらに、高齢者への災害看護活動や地域包括ケアシステムについても考える機会とする。										
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)									
	関連する DP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。(知識・理解) F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現)									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院した高齢者の特徴と、状況に応じて提供すべき看護について概略を説明できる。 2. 脳・神経疾患、骨折、肺炎、心疾患など老年期に多い健康障害の特徴や看護について説明できる。 3. 老年看護における看護過程の考え方について説明できる。 4. 事例を通して高齢者の健康課題をアセスメントすることができる。 5. 事例に基づき看護課題を抽出し、目標に沿った看護計画を立案することができる。 6. 高齢者の摂食嚥下障害をふまえた援助を実施することができる。 										
成績評価方法 (基準)	筆記試験(70%)、レポート課題(30%)										
再試験の有無と 基準等	科目の可否結果で不合格となった者には、当該学生からの申請により再試験を実施する。再試験は筆記試験とし、それまでのレポート課題は再試験の評価に加味しない。										
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)										
参考書等	講義の中で必要時紹介します。										
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	講義で理解できなかったこと、疑問に思ったことなど、積極的に質問してください。実習に向けて、老年看護に関するこれまでの学びを整理していきましょう。										
備考	老年看護方法Ⅰを修得していないと履修できません。										
回	学習項目			学習内容				主担当 教員	授業 方法		
1回	入院した高齢者の特徴と看護			高齢者に対する入院・検査・手術・退院時の看護について学ぶ。また、高齢者の薬物療法の特徴について学ぶ。				小松	講義		
2回	高齢者のリハビリテーション 看護過程の展開①(事例紹介)			高齢者のリハビリテーションの特徴について学ぶ。事例の説明を行い、事例について看護過程の展開を各自で行う。				清水他	講義		
3回	摂食嚥下障害のある高齢者への援助技術			摂食嚥下障害のある高齢者への援助を実践する。				清水他	演習		
4回	摂食嚥下障害のある高齢者への援助技術			摂食嚥下障害のある高齢者への援助を実践する。				田端他	演習		
5回	老年看護における看護過程の考え方 看護過程の展開②(事例紹介・アセスメント)			高齢者の健康課題の捉え方、老年期における看護過程の特徴を学ぶ。事例の説明を行い、事例について看護過程の展開を各自で行う。				清水他	演習		
6回	看護過程の展開③(アセスメント)			必要な情報を整理し、記録用紙にアセスメントを記載していく。				清水他	演習		
7回	看護過程の展開④(アセスメント)			加齢を含めた高齢者の特徴をふまえ、アセスメントを行う。				清水他	演習		
8回	看護過程の展開⑤(アセスメント・統合)			機能別にアセスメントした内容の全体像を捉え、統合的にアセスメントを行う。				田端他	演習		
9回	看護過程の展開⑥(看護の焦点の明確化・目標の設定、看護計画の立案)			看護上の課題・看護の焦点を明確化し、優先順位をつける。看護目標を設定して、看護計画を立案する。				竹村他	演習		
10回	看護過程の展開⑦(看護計画の立案・経過記録・まとめ)			経過記録を記載する。看護過程の展開を振り返り、老年看護における看護過程の特徴をふまえ自己の学びを整理する。				田端他	演習		
11回	高齢者への災害看護活動			災害時の高齢者の健康問題や日常生活問題を捉え、看護支援を学ぶ。				清水	講義		
12回	老年期に多い健康障害と看護①			高齢者に多くみられる脳・神経疾患(脳卒中・パーキンソン病など)およびその看護について学ぶ。				田端	講義		

回	学習項目	学習内容	担当教員	授業方法
13回	老年期に多い健康障害と看護②	高齢者に多くみられる運動器の疾患（大腿骨頭部骨折・変形性膝関節症など）およびその看護について学ぶ。	竹村	講義
14回	老年期に多い健康障害と看護③	高齢者に多くみられる肺炎・心疾患（誤嚥性肺炎・心不全など）およびその看護について学ぶ。	田端	講義
15回	地域包括ケアシステムにおける老年看護の役割 老年看護学実習に向けて	高齢者がその人らしく生きるために必要な地域の包括的な支援とサービス提供体制を捉え、看護の役割を学ぶ。 高齢者の尊厳を尊重した看護や老年看護の役割について考え、老年看護学実習に向けた自己の学習課題を明確にする。	清水他	演習

学 習 課 題	
1回目課題	（事後）：加齢の生理的変化に伴う薬理作用への影響を整理する。
2回目課題	（事前）：高齢者のリハビリテーションの特徴について自己学習する。 （事前）：間接訓練・直接訓練の目的および方法についてレポートにまとめて提出する。レポート配点（5点） なお、レポートでまとめる訓練は3種類以上とする。 （事後）：高齢者のリハビリテーションの学びを整理する。
3・4回目課題	（事前）：アISMマッサージの目的および方法について自己学習する。 （事後）：摂食嚥下障害のある高齢者への援助の学びを整理する。
5回目課題	（事前）：基礎看護方法Ⅲで学習した看護過程の展開について復習しておく。 また、老年看護学概論・老年看護方法Ⅰで学習した加齢による身体、精神、心理・社会的特徴とそれに伴う生活の変化や介護保険制度について復習しておく。 （事後）：老年看護における看護過程の特徴について整理する。
6～9回目課題	（事後）：講義時間内に演習内容が行えなかった場合は、事後学習として時間外に行う。
10回目課題	（事後）：看護過程の演習で記載した指定の記録用紙を期日までに提出する。レポート配点（25点）
11回目課題	（事前）：高齢者への災害看護活動の実際を調べる。 （事後）：高齢者への災害看護活動の学びを整理する。
12回目課題	（事前）：脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、うつについて自己学習する。 （事後）：脳・神経疾患を持つ高齢者への看護の方法を整理する。
13回目課題	（事前）：大腿骨頭部骨折・変形性膝関節症など高齢者に多くみられる運動器の疾患について高齢者の特徴をふまえて自己学習する。 （事後）：運動器の疾患を持つ高齢者への看護の方法を整理する。
14回目課題	（事前）：肺炎、心不全について自己学習する。 （事後）：肺炎・心疾患を持つ高齢者への看護の方法を整理する。
15回目課題	（事前）：高齢者を対象とした地域包括支援システムの取組の実際を調べる。 （事後）：高齢者における地域包括ケアシステムの学びを整理する。 （事後）：老年看護学実習において何を学びたいか、自分の考えを記述する。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。